

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部・4年

氏名: 古財奈津希

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(韓国)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>慶熙大学歯学部を訪問した。一日目は、オリエンテーション、放射線科の授業に参加し、病院見学(歯周病科、矯正科、口腔外科、放射線科)に参加した。二日目は、基礎科目の研究室を訪問し、病院見学(補綴科、口腔内科)に参加した。三日目は、病院見学(保存科、小児歯科)に参加し、江東慶熙大学病院を訪問した。これらのプログラムを通じ、他国の歯科医療や文化に実際に触れ、自分の思考や視野が大きく広がり、日本の歯科医療というものを俯瞰して見る事ができた。また、同世代や先生方との交流を通して、国際社会におけるコミュニケーションの方法を学んだ。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>歯科に関しては、インプラントセンターがあるほど、インプラントが盛んであった。授業は、放射線の講義を受けたが、高校物理のところから導入しており、詳しく学んでいた。講義の形態は50分講義が6コマくらいあり、一コマ目も8:00からと早かったが、空きコマもあった。鹿児島大学歯学部のスケジュールとはかなり違っており新鮮だった。また、卒業までに、例えば、抜歯何本、補綴治療を何本といった症例を集めてなければ卒業出来ないというのも日本とは違い面白かった。文化面では、一人でご飯を食べるという文化があまりなく、おまけやおかわりを色んなところでもらえ、食を友人や家族と楽しむ文化があると思った。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回はコロナ渦の渡航ということで、韓国に行くには、ビザ申請やPCR検査であったりと普段よりも複雑な手続きがいくつもあった。インターネットでリサーチし、自分で宿や航空券を決め、韓国に詳しい人に話を聞いたり、英語や韓国語を勉強して行ったりと、前準備を入念にし、初めて行く異国の地で無事研修を終えられたことは自分の自信につながったと思う。特に、言語には不安があり、うまくコミュニケーションをとれるか心配だったが、韓国語や英語を聞き取ることが出来て、相手とコミュニケーションがとれて感動した。言語の素晴らしさを実感した。研修前は私が興味を持つ国際社会というものは、遠いもののように感じていたが、実際に経験することで自分もその一人に入れたような気がして感動した。これは自分の中で一番の成長、心の変化だと考える。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今後取り組みたいことはたくさんあるが、特に、以下の二つである。一つ目は、学生のうちの小さな交流からでも、積極的に参加していくことである。異文化との交流は自分をおく環境では気付かなかったことを知ることができ、新しきを知ることができることを感じた。交流を続けていくことは歯科医療を発展する過程となると思った。二つ目は歯科医療としての英語の学習も、日々の英語学習に加えて取り組むこと。大学内では、英語はある程度話せて当たり前のように感じた。自分も歯科医師になったときに、医療の現場で英語の対応ができるべきだと感じた。そして最後に、幅広い見識をもった、国際社会に通用できる歯科医師になりたいということが今後の目標である。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科 4年

氏名: 富永あかり

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(韓国)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>慶熙大学病院にて、病院内の見学を行った。日本の大学病院と大きく構造が異なることはなく、診察の様子や治療方法や使っている器具も覚えのあるものだった。しかし、インプラントを扱うインプラントセンターや顎関節症を扱う口腔内科など、鹿児島大学病院ではないものも存在しており、特に口腔内科では使う機具、診察内容など、これまでに見たことのない物を多く見ること、体験することができた。また、必要な症例数の診察を行わないと卒業することができないという韓国の規則によるものか、診察している学生の姿がどこの診療科でも頻繁に見ることができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>現地では研修先の大学だけではなく、飲食店やホテルなどに日本語を話すことのできる韓国の方によく出会った。日本と近い国であることもあってか、日本人の観光客が多く韓国へ旅行に行っているのは知っており、日本語が通じる場所が多く存在するのは知っていたが、言語以外にも、食事についても、すき焼きやたこ焼き、らっきよの漬物など、日本の文化が韓国の文化に混ざっているのを見ることができた。日本の食べ物で韓国の食器を使っているお店を見ると、異なる文化を折衷し、昇華する良い方法だなと感じた。また、慶熙大学の学生会の方々が韓国の伝統料理を出しているお店に連れて行ってくださり、イメージしていた辛い料理とは異なるもので、驚いた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>第一使用言語が英語ではない海外の国に行くのは初めてだったため、韓国語の勉強を少ししておこうと思ったが、英語もある程度通じるであろうと考え、簡単な単語の意味がわかる程度の習得のみで研修先へ行った。実際、英語が通じないわけではなかったが、研修先の人も私も第一使用言語が英語ではない人同士であり、意思の疎通が図りにくい場面が多々あった。しかし、一緒に研修に行っていた友人は韓国語で話すことができ、慶熙大学の学生会との交流時には特にスムーズにコミュニケーションがとれていた。これを見て、使い慣れた言語が共通であると会話がしやすいのはもちろん、親しみが湧くのだということを強く実感し、今後同じような状況になる際は言語の習得をできる限り努力することで、しない時よりも良い経験を得たいと思う。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>治療に恐怖心などのマイナスの感情を抱きやすい歯科治療を行うにあたって、正確で綿密なコミュニケーションや親しみやすさがとても大事であると考え。そのため、まだ自分がどこでどのような状況で歯科医師として働くのかがまだわからない状況であるが、今回の研修のように言語が異なるような海外のようなわかりやすい地域の違いだけではなく、国内で同じ県内であったとしても少しずつ違う方言や地域独特の文化、職種による特殊性などを十分に理解している、また、理解しようと、学生のうちから今回の研修のようなさまざまな経験を積み、努力し続けていきたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部4年

氏名: 岩崎 彩花

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(韓国)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修先では主に大学病院の見学を行った。1日目は歯周病、矯正、口腔外科、放射線を見学し、2日目は基礎系の研究室、口腔内科、補綴を見学し、3日目は保存、小児、そして広東キョンヒ大学の大学病院巡りや講義を受けた。日本と韓国の臨床の違いは、まだ臨床の場を見る機会が少なかったのであまりわからなかったが、日本にはない口腔内科という診療科があった。口腔内科とは事故などの外傷や日常生活で感じる顎顔面領域にわたる痛みを和らげることをする診療科であり、超音波や問診、スプレー等を用いて治療を行っていた。日本では作業療法士が行うようなことを韓国では歯科医師が行っていた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私はこの研修が初めての海外であり、様々なことに不安を抱いていたが、最も苦労したことは言語の壁であった。大学では主にコミュニケーション手段として英語を用いたが、2日目の夜にキョンヒ大学の学生と交流するときうまく英語でコミュニケーションをとることができず、歯痒い思いをすることになってしまった。また、韓国語もわからなかったため、一緒に同行していた友達に助けられ、思うように意思疎通をすることができなかった。単語だけで通じることはあったが、それでは相手に失礼になってしまうので、今後は聞く話すことを中心に英語や韓国語を習得していき、1月に留学生が来たときは今回よりも意思疎通ができるように備えたい。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修前では海外の学生や先生と交流をする場面もなかなか無かったので、日本国内にしか目を向けられなかったが、研修後では同じ学年の韓国の生徒や、鹿児島大学卒業の韓国の先生、キョンヒ大学の先生と交流をすることで視野を広げることができた。広東キョンヒ大学に見学に行った時に、インプラントの講義を受けたが、韓国での症例の話であったが日本でも言えることで、日本の教授と共同で研究している内容であった。それを受けて、今後日本の歯学だけではなく海外の論文を読んだり、文献を調べたり積極的に勉強していきたいと思った。また、さらに基礎となる大学の授業もしっかりと勉強したいと思った。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>昨今、増えてきている災害が起こったときにボランティアに参加したい。鹿児島では特に大雨や地震、桜島の噴火等様々な自然災害が起こる。その時に災害で困っている人や不安な人たちの支えになりたいと考えている。学生のうちにこのようなボランティアに参加することで、将来歯科医師になって、被災地に歯科診療をするための心構えを養いたいと考えている。実際に口腔ケアをするだけでなく、親身になって被災者に寄り添い不安を取り除ける歯科医師になりたい。例えば、子供には不安を取り除くために口腔ケアを行いながら絵本の読み聞かせをおこなうことや、高齢者の方には世間話を行いながら痛みや不便に感じていることを取り除いてあげたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部4年

氏名: 宮田彩花

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(中国)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>この研修では、事前に出した希望に沿って講義や臨床見学をプログラムしていただけます。私はAIと歯科医療の関わり方に興味があったため、光学印象採得の体験や、AIに関する講義を入れていただきました。加えて外科手術や抜歯、補綴治療などの見学を行い、実際の臨床の現場の様子を学ぶことができました。4年生の段階で実際の臨床の様子を直で見る機会はあまりなかったため、座学で学んだことが臨床と結びつく貴重な機会でした。また香港大学では学生が患者さんの抜歯をする講義があるのですが、同じ手術名でも患者さんによって状態や対応が千差万別であることを肌で感じて学びました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先周辺は香港の中でも古い街並みが残っているとされる地域だったこともあったからか、看板や竹足場、乾物問屋などといった香港ならではの街並みを見たり、香港の特有のご飯をいただける食事処を教えてくださいました。また、分からないことは周りにいた現地の方に教えてもらうことが多かったのですが、現地の方の中には広東語のみ話す方もいて、お互い翻訳機を使ったり身振り手振りで伝え合おうとすることもあり、使う言葉が違っても交流ができることをしみじみ感じました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修中は研修先の先生や学生と食事をしたり交流したりする機会にとっても恵まれました。私は今回の研修が初めての海外経験であったこともあり、異国の地で、未知の文化に晒されながら苦手意識を強く持つ英語でコミュニケーションを取ることに、不安を感じていました。その緊張もあったからか、研修当初は意思疎通がままならず、気持ちが萎縮することも多々ありました。しかし、回を重ねるにつれ聞き取れることも増えていき、伝わらないと手を替え品を替え伝えようとしてきました。そのおかげか、研修の終わりには現地の方との会話を楽しむまでになっておりました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修当初は英語がよく聞き取れず、特に英語において歯科の専門用語をどう表現すれば良いか分からず苦労しました。研修終盤では慣れもあって理解できることが増えてきましたが、不十分であることを実感できた機会でした。またこの度の研修を通して、将来的に国際的な視点でものを見ながら地域に還元する歯科医療人でありたいと思うようになりました。そのために共通言語である英語でのコミュニケーションは必要不可欠であると感じたため、自身の専門分野である歯科領域について英語でリスニングやスピーキングができるように勉強していきたいと思いました。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科・4年

氏名: 櫻井鞠衣

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(中国)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>3年生のシュミレーション実習、4・5・6年生の臨床実習、5・6年生の抜歯実習、現地の教員の口腔外科治療などを見学しました。シュミレーション実習ではアンレーの支台歯形成における重要なポイントやなぜそのような形に形成しなければならないかを勉強しました。基本臨床実習では教員1名につき学生10名のグループに混ざり歯周病検査、印象採得、齶蝕治療などの基本的な歯科治療を見学しました。抜歯治療では基本的な抜歯治療から難易度の高い埋伏智歯の抜歯まで幅広い治療を見学しました。口腔外科治療では埋伏智歯の抜歯や嚢胞摘出を見学しました。日本では私の学年ではまだ臨床実習が始まっていないのでとても貴重な経験になりました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>香港は面積が小さく、小さな土地に人口も建物も密集しているため、狭い範囲内に代表的な都市が集まっていました。交通手段も地下鉄、トラム、タクシーなど様々ありとても便利だと思いました。どこに行くのにも公共交通機関を利用して手軽に短時間で移動することができた印象です。また、背の高い建物が密集して建設されており、日本に比べると店舗内の面積がとても狭く感じられました。そのため、飲食店などでは必要最低限の時間で食事し回転率が高いという印象がありました。香港大学歯学部の学生や教員の方々は皆勤勉で親切で、歯学のことだけでなく香港の街のことや伝統などについても積極的に話をしてくださり、とても勉強になりました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>現地学生と教員のグループに参加させていただく機会が多くありました。初めの数日は歯科用語や専門的な説明を英語で聞き取り理解するのに精一杯でしたが、日を重ねるにつれて疑問点を質問したりお互いの相違点を話したり出来るようになったことが最も大きな成長だと思います。滞在中に抜歯実習のクラスが4回あり、衛生士、学生、教員で何度も顔を合わせたメンバーもいました。初回の授業で埋伏智歯抜歯の症例を見学しているときに香港と日本では異なる難易度判定を使っていることを学び、ホテルに戻ってから自分で調べ、次回の授業で2つの違いや適用場面について現地学生とディスカッションをできた事は本当に良い経験になったと思います。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>香港大学で教員と学生のグループに参加したときに高齢化の話題でディスカッションをしました。香港でも高齢化の傾向にあること、日本は香港に比べさらに高齢化率が高いこと、高齢化社会における歯科治療のニーズなどについて話しました。世界的に見ても今後高齢化が進んでいく見込みであり、日本は高齢化社会のモデルケースになっていくと考えられます。鹿児島には人口に占める高齢者の割合が非常に高い離島も多くあり、私は鹿児島で歯学を学ぶ歯科学生として、今後高齢化社会における歯科医師の役割を見つけ、行動したいと考えております。特に、訪問歯科診療と全身管理注目して積極的に勉強したいです。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部4年

氏名: 北脇綾乃

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(中国)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>香港大学歯学部の4年から6年の学生臨床実習ならびに模型実習の見学、研究室の見学、AIを用いた歯科治療についての講義を受講しました。鹿児島大学では臨床実習は5年生からですが、香港大学では2年生から学生が自分で患者さんの予約をとって実際に治療を行っており、実践的な手技を身につけている様子に刺激を受けました。また、臨床や研究に用いられる器械や手技、感染症対策など日本と同じ点がたくさんある一方で、教育の方法や設備、保険制度、補綴治療でよく用いられる材料など、日本と異なっている点があることも興味深かったです。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>香港大学では教員と学生は英語で話し、学生同士や患者さんに対しては中国語(広東語)で話をしていました。授業や教科書は英語のため、どの学生も英語を当たり前に使っていました。先生方や学生に治療や疾患など色々なことを英語で説明していただきましたが完全には理解できず、もっと英語を聞き取る力やコミュニケーション力を身につけなければならないと感じました。日本では教科書も授業も会話も全て日本語なので日常生活で英語を使う機会がほとんどありませんが、上達するには日常的に英語に触れ、積極的に使う必要性を実感しました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回は、世界大学ランキングでいつも上位に入っている香港大学ではどのような教育が行われているのかを見てみたかったため、この研修に参加しました。普段の授業は座学での講義が中心だったため、香港大学での低学年からの模型実習や実際の患者さんに対する臨床実習の多さに驚きました。自分で患者さんの来院日時の予約を取り、治療計画を立てた上で実際に抜歯や補綴治療、根管治療などを行っておりその主体性や責任感の強さ、技術力に驚きました。半年後には自分も臨床実習が始まるため、普段の座学の勉強が臨床に繋がっているという意識を持って気を引き締めて勉強しなければならないと感じました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>海外研修に参加して、今まで全く知らなかった香港の歯学部の学生や先生とたくさんお話し、共通点や違いを知ることのおもしろさや新しいことを学ぶ楽しさを知りました。香港大学では臨床実習の多さに驚きましたが、鹿大では今まで講義や実習だけでなく、研究実践の授業やゼミなどを通して、研究のおもしろさも学ぶことができました。今の時点では大学卒業後は大学院に進み、臨床と同時に研究も行いたいと考えています。大学院では海外留学も行い、常に学び続けて広い視野を持つことで、新しい治療法を開発したり提案できる歯科医師になりたいです。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部・4年

氏名: 山口舞

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(台湾)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>高雄医学大学では多くの最先端の技術を実際に触れながら学ばせていただきました。具体的にはCAD/CAMや3Dプリンターの設計から実際に出来上がるまでを経験させてもらったり、インプラントについて古典的なやり方と、最先端のやり方をどちらも体験させていただくことで利点欠点を学ぶことができました。また、機械が自分の実習成果をその場で分析してくれる装置を実際に使わせていただき、とても画期的で実用的な機械であると感じました。その他にも細胞培養実験を実際に行なったりと普段授業を受けているだけでは経験できない貴重な経験をすることができたことは自分自身の知識、視野を広げるとても貴重な時間だったと感じています。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>海外渡航経験はありますがここまで現地の人と密接に関わり、母国語ではない言語を多く話す機会は初めてでした。大きな不安を抱えて渡航したわけではありませんが、実際に行ってみると授業は基本全て英語、コミュニケーションも英語と少しの日本語、中国語という事実で最初はとても緊張感を抱いていました。自分自身特別英語を流暢に話せるわけはありませんが、お互いに伝え合おうとする気持ちがあればコミュニケーションをすることは難しくないということを肌で感じる事ができたことはとても良い経験だと感じています。また高雄の先生、生徒、地域の人々が本当に快く私たちを受け入れてくださり、人の心の温かさを感じる時間となりました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>先ほどと少し重なるところがありますが、最初は言語が日本語でないことから、受動的に話をすることが多かったように感じます。生徒と話すにしても、先生と話すにしても指示を待って聞かれたことに答えることが大半でしたし、何かを話そうとするときは先に英語をしっかりと考えてから話そうとしていました。しかし日を重ねる毎に、自分から気になることは自主的に話したり、授業でわからないことがあったときは先生に質問をするようになっていました。何よりも話をするとき日本語から英語に変換することなく英語を話すことができていたことが自分自身すごく成長できたことだと思います。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回日常とは異なる環境に飛び込むことで、普段は意識していなかった他の地域では、他の国ではどのようなやり方で治療しているのだろう、同じ内容をどうやって学んでるのだろうという新しい視点で物事を見る貴重な機会を得ました。この考え方は何か問題に直面したときに、もちろん目の前のことをまっすぐ見つめることも必要であると感じますが、他にはどんなやり方があるんだろうと広い視点で物事を見ることができると感じます。今後自分自身が歯科医師になっていく上で狭い視野と広い視野をどちらも使いこなして問題解決に挑めるような人材になれるよう普段の課題から意識して取り組みたいと思います。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科・4年

氏名: 平井 優至

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(台湾)
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>2023年3月3日に高雄に到着し、高雄医科大学の先生方や生徒同士の顔合わせ、大学へのアクセスや、下見を終えた後は、歯科展覧会に行きました。そこでは、世界の様々な最先端の歯科医療技術を見学、体験することができました。研修は、近年、大学が歯科医療技術において、光学印象やデジタルインプラントなど、新たなシステムやデジタル機器を導入し、力を入れている分野について主に学ぶことができました。研修修了証書を受けとるまで、英語で意思疎通し、高雄での歯科医療教育と現場を学べた、とても貴重な経験をすることができました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>高雄市は鹿児島市よりも、都市も広く、人口も多く、高雄の街はとても都会でした。車よりもオートバイが多く、交通も混雑している印象でした。オートバイは電動のものが流通していて、街の至る所にバッテリー交換場所が設置され、月契約でいつでも交換できるシステムでした。その点において、台湾は日本より進んでいると思いました。また、台湾では夜市が有名で、深夜近くまで出店が所々で見られました。驚いたことに、台湾の人は、ほぼ毎日外食するという話を聞きました。確かに、夜市では、常に多くの人がいって賑やかに食事をしている風景をよく目にしました。高雄の街は非常に活気があり、生き生きと輝いているように私の目には映りました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>言語力やコミュニケーション力の成長はもちろん感じていますが、私が高雄医科大学でもっとも成長できたと感じたことは、口腔インプラント学についての知識と技術です。講義では、インプラントの道具の紹介から、術式の手順までを学び、実際に模型とメスや針、糸を使って従来のインプラント手術方法と、デジタルスキャナーやコンパウンド印象を使った未来のデジタルインプラント治療を、一部、実習を通して学ぶことができました。この科目は、私が興味を持っている分野ですし、鹿児島大学ではこれから履修する科目でもあったので、より熱意を持って取り組むことができました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>高雄医科大学のある教授が、「この研修において、歯科医療の従来の方法と、デジタルを使った最先端の方法を教えるが、よく違いを学び、融合し、良いところを取り入れていって欲しい。」と言いました。私は、そこに医療の発展を見た気がしました。あらゆる事象もまた、同様だと考えます。地域社会の発展には、先人が築いてきたモノを学び、尊重し、新しいモノを融合していることが大切です。そのために、「従来」と「最新」の双方の学習を怠らず、継続していかなければなりません。将来は、地域社会の発展にのみならず、世界の発展にも寄与できる医療者になりたいと強く思っています。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学科4年

氏名: 古財奈津希

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ(台湾)
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>1日目は、オープニングセレモニー後、大学の見学  2日目は、高雄市内で開業している歯科医院や、大学病院に勤める先生や衛生士による症例発表や講演会、歯科材料や器具の会社による商品紹介などが行われているエキシビジョンへの参加。そして、同じ学年の生徒との交流会  3日目は、歯科におけるデジタルの活用と窩洞形成の練習システムの体験(SimEx)  4日目は、インプラント術式の、スタンダードタイプと新しいタイプの体験  5日目は、基礎系の研究室への見学と細胞培養の体験、コンポジットレジン講義、実験  6日目は根幹治療(AR/VR)と3Dプリンターについて講義、設計体験  を行いました。8日間の学習プログラムを経て、最先端の技術を体験でき、台湾での歯科学生がどのように勉強しているのか肌で感じることができました。またコミュニケーションも円滑にとれたので自信につながりました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>まず、台湾の人は親切な人が多かったように思います。トイレで並んでいたら空きましたと教えてくれたり、道を譲るとありがとうと必ず言ってくれたり、仲良くなった友人は送り迎えをわざわざしてくれたり、先生はお弁当やおやつを買ってくれたりとても親切でした。家族を大切にす文化もあり素敵だと感じました。人懐っこい人も多く、ずっと誰かと一緒にいるのが普通のような感じでした。見返りのない優しさを感じました。人情あふれる国だと感じました。文化的な面では、3食外食をするように食べ物の物価が安かったです。歯科的な面で見ると、甘い飲み物が多いことが気になりました。少なからずう蝕になりやすい文化があるのではないかと思います。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>実際に同じ歯科という学問を専攻する海外の学生との交流を経て、沢山の刺激を受けました。まず、高雄医学大学の学生は皆、生き生きとしていて、コミュニケーションスキルも高く、歯科への学習度も高く、英語も堪能で、同世代の人ということもあり、自分はまだまだ井の中の蛙だと思いました。世界のレベルに実際に触れて、歯科学への学習はもちろんですが、英語のスキルや対人コミュニケーションなど、人間力も兼ね備える、歯科医師を目指すべきだと改めて感じました。こういったマインドの面で大きな心境の変化がありました。これからの学習の姿勢、思考への良い影響があったと思いました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>グローバル社会で求められる、全く異なる価値観を有する他者との母国語以外でのコミュニケーションスキルをより磨こうと思いました。今回の研修ではコミュニケーションはかなりとれたように感じます。その点に関してはとても自分の自信につながりました。しかし、もっと表現したいことがたくさんありましたが、英語での表現の仕方が分からなかった部分がありました。今後はスピーキングに力を入れようと思いました。それでも、異文化を認め、他者と協働するという目標は達成できたように思います。また、台湾の歯科学生と実際に交流し、大学で研修をしたことで、台湾の歯学部生が普段行っている勉強に実際に触れてとても刺激になりました。自分の歯科のスキルを上げなければいけないと思いました。そして他国の歯科医療について実際に触れて、見ることで自国の歯科医療における利点や欠点に気づくことができました。これらの経験を生かして、視野を広く持った全人的歯科治療のできる歯科医師になりたいです。</p>	